

### 1年間の「BRICs」業績比較\*

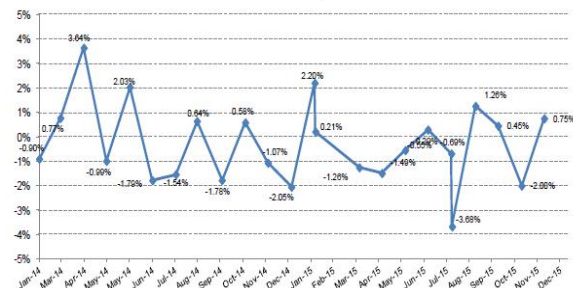
インドの「SENSEX (センセックス)」が「BRICs」で第3位に浮上 (1年)



降順 (2014年12月31日～2015年12月31日) : SHCOMP (上海総合指数)、  
INDXCF (MOSCOW: モスクワ証券取引所)、BSE SENSEX (ボンベイ証券取引所) &  
IBOVESPA (サンパウロ証券取引所)

### INR (インドルピー) / USD チャート (2014年1月～2015年12月)

INR/USD (月次) \*



\* 出典: Bloomberg

\*\* S&P

### 外国投資家が国債の新規供給に殺到

2016年1月4日に申込目的で販売されたインド国債に間接投資 (FPI) が殺到し、新興成長市場で最良のリターンを供与する債券の魅力が実証されました。「FPI」による申込は公募数の2倍相当に達し、緩和された上限を利用する目的から 82 ベーシス・ポイント (bps) 高い金額を支払っても購入したいという熱心な関心を集めたのです。1 bps は 1% の 1/100 に相当します。2018年3月までトランシュ (tranches) のグローバル投資家を対象として国債の発行済み総高の最大 5% にまで開放するインド中央銀行 (RBI) 計画の一環として 1月1日より、FPI が購入できる国債購入高が従来から USD 80 億拡張されたのです。

### インド、依然としてグローバル経済の明るい材料: 世界銀行

世界銀行によると、インドは引き続きグローバル経済の明るい材料となり、2016～17年の財政年度においては、中国を 1% 以上上回る 7.8% という堅調な成長を遂げることが見込まれています。世界銀行は、6 か月ごとに公表している最新の「Global Economic Prospect」の中で、2015年度 0.2%、2016年度と 2017年度はともに 0.1%、インドの成長率を若干下方修正しています。しかしながら、中国経済の成長がさらに停滞することが予想される中で、インドは引き続きグローバル経済の明るい材料となることでしょう。

### 依然として安心水準にある 2016年財政年度収支

2016年財政年度におけるインドの対外均衡ですが、1. 石油や他の商品の価格の鎮圧に伴う貿易赤字の縮減および 2. グローバル規模では比較的健全なマクロを理由に前年度より改善される見通しです。

### 2016年度は前向きな見通しのインドのソブリン格付け (Baa3) : Moody's および ICRA

グローバル信用格付け機関の Moody's およびインドの関係機関である ICRA の公式見解によると、2016年度のインドのソブリン格付け (Baa3) は前向きな見通しであり、同じような格付けの他の新興成長市場であるブラジル、ロシア、南アフリカ、インドネシア、トルコ、フィリピンの市況には逆らうと予測されています。同機関は、インド国内の堅調な成長および金融政策の緩和によって企業が恩恵を享受しているとの見解を示しています。「Baa3」格付けにはインド国内の多様な経済、健全な成長見込み、比較的高い国内の貯蓄率ならびに高水準の国際保全バッファ (reserve buffer) といった信用力が加味されています。

### 2016年度予算: 事業緩和促進を目的に Modi 政権が直接税の見直しに着手する見通し

予測可能で非敵対的な税制を確約してきた Narendra Modi 政権ですが、財務大臣の Arun Jaitley が来月に提出する「予算」案の中で直接税の全面的な見直しに着手することになりそうです。全面的な見直しの促進にあたっては簡素化と合理化が 2 つのテーマとなりますが、すなわち、事業緩和の促進と同時に投資家連中にとって悪意で不利益なものとして長年捉えられてきたインド国内の税環境の印象をより建設的なもの

### CPI (消費者物価指数) & インフレ

国内に目を向けると、11月期の CPI (消費者物価指数) は、マイナスのベース効果と価格モメンタムの連続的上昇に起因して引き続き北向きの軌道を描きました。消費者物価指数水準は 10月期の 5% から 5.4% に微増しました。さらに、コア・インフレ率も 10月期の 4.4% からの微増となる 4.6% を記録しました。価格モメンタムですが、前月比で 10月期の 0.6% との比較では前月比で 0.4% の上昇が見られました。CPI (消費者物価指数) の最大 46% を構成する食糧指数 (food index) ですが、野菜価格の収縮を理由に一定の緩和が観測されました。1年を通じて不変であったパルス価格は前月比で 3.6% ジリジリ上昇しました。パルスの在庫蓄積の改善や輸出規模の拡大といった「政府」の取り組みですが、価格面の緩和という形でまだ反映されていません。電気価格の高騰に伴い、指数の「燃料&光熱」コンポーネントが上昇しました。サービス・インフレ (services inflation) 全般は大半のカテゴリー、すなわち、健康医療、レクリエーション、教育および輸送&通信で継続的な上昇となり、パーソナル・ケアは前月比で緊縮しました。サービス・インフレ (Services inflation) は安定した軌道を反映しており、当面は懸念すべき要素は見当たりません。2016年度1月期の RBI (インド中央銀行) の 5.8% という目標値は問題なく達成される可能性が高いでしょう。

## Disclaimers and Disclosures

UTI International (Singapore) Private Limited (以下「UTI IS」)は、シンガポール金融庁(MAS)の規制を受け、資本市場サービスライセンスを保有し、ファンドマネジメントに関する規制対象業務を行っています。UTI ISは、このようなレポートの完全性や正確性に関して、一切の責任を負わないものとします。レポートは、株式のオファーに相当するものではなく、推奨、意見の主張、広告でもありません。ステートメントの内容は、特別な目的、金融機関やこのステートメントを受け取る特定の人のための特別なニーズに関係なく、情報提供のみを目的としており、そのような人には、ファンドの株式の購入契約を行う前に、金融アドバイザーからのアドバイスを求めることをお勧めします。もしそのような人がそのようなことを行わなかった場合、その人はその投資が自分に適しているかどうかを慎重に考慮すべきです。ここで述べられているファンドの過去の業績は、将来的な業績を示唆しているとは限りません。

ここで説明されているファンドは、シンガポール金融庁(以下「MAS」)によって認められた制限された計画であり、機関投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)および適格投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)にのみ提供または販売されています。免責金融アドバイザーとして、UTI IS は、FAA の下、規則 33、34、35、36 または金融アドバイザー法(以下「FAR」)の他の規則に従って、「機関投資家」「適格投資家」「海外投資家」「(シンガポール国民ではない)」「(シンガポール永住者ではない)」「(シンガポール国民または永住者に全てまたは一部依存していない)」「(シンガポール国外に住む個人、またその他の例としては、シンガポールに商業拠点を置いていないまたは物理的に所在していない人)」に関して対象となる免責に基づくことができます。

[www.utifunds.com](http://www.utifunds.com) にアクセスしてください